

博物館だより

No.127



平成29年6月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

博物館新展示・ここに注目!

小宮豊隆資料

「漱石コレクション」

Vol.14

今年夏は夏目漱石生誕150年。没後100年の昨年に続き、文豪ゆかりの事は注目的で、博物館所蔵の「小宮豊隆資料」もその一つです。漱石の愛弟子で町出身の文芸評論家が愛蔵した、漱石ゆかりの逸品をご紹介します。
●夏目漱石肖像写真群 明治三九〜大正五年
写真は明治中期以降、庶民向けに爆発的に普及し、のちの絵葉書ブームとも併せて記念品やお土産、名刺代わりに交換配



▲上:様々なポーズで写った写真群
下:恵存署名のある写真(明治43年)

布することも広く行われます。世間の流行には距離を置きがちな漱石も、元来が江戸っ子でお洒落な性分ゆえか、写真への抵抗は少なかったようで、それこそ幼少時から死の直前までの写真が残されています。小宮とは作家デビュー後に写真を作りとりしたようで、その時期以降の写真が10数枚あり、署名入りのものもみられます。漱石には写真に関する逸話も多く、あばたや髭の形、臨終直前の撮影譚が有名ですが、これらの写真にはどんな逸話があったのか興味をそそられます。

◆講座教室催し物ガイド 6月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】 6月3日(土) 9時30分
- 【古典かな講座】 6月17日(土) 9時30分
- 【みやこ学講座】 6月24日(土) ※現地学習 9時〜(予定)
- 【古文書講座】 6月25日(日) 10時00分

※見学会等は別途案内します
※日程等変更となる場合があります

文化遺産ボランティア養成講座(第2期)が始まります!

講座のテーマは「ガイド&ガイドで活かす「みやこ遺産」」。町の代表的文化遺産のガイド体験や、清掃・除草のような簡単な管理作業を通して町の宝を守る取組みにチャレンジします。関心とやる気があれば町内外問わず、途中参加も可能です。

※第1回 6月17日(土)13〜15時
※申込先 博物館 ☎33-46666

◆博物館NEWS

博物館を楽しむ「新ツール」が2点登場!

①新図録「漱石コレクション」刊行!!

博物館では、新たに展示資料図録「小宮豊隆資料「漱石コレクション」」を刊行しました。リニューアル後の展示の目玉でもある同資料を、お手元で気軽に鑑賞いただけます。A4版50頁・オールカラーで頒価千円です。来館記念に一部いかがですか!



▲図録では常設展示される貴重な書簡や写真等の資料をカラーで紹介するほか、小宮氏がふるさとを詠んだ句なども紹介しています

②ウェブ博物館「みやこ町文化遺産」の運用が本格スタート!!

博物館では文化庁の「文化遺産を活かした地域活性化事業」を活用して、文化遺産情報サイト「アデアック デジタルアーカイブシステム」から町の文化遺産情報の発信を始めています。

以下のサイトで町自慢のお宝(小宮豊隆資料・小笠原文庫「豊前国絵図」神像類3D画像など)の一部について詳細観察が可能となりました。
<https://trc-adeac.trc.co.jp/>
このサイトからお宝の宝を手軽に「くわんご」観たわご。

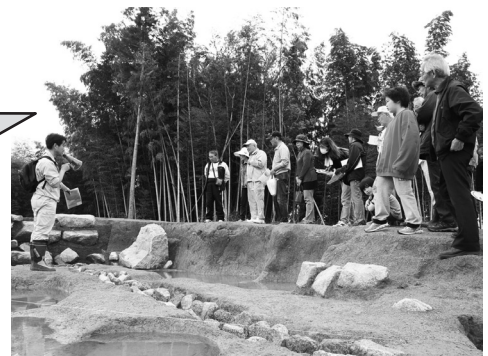
4月の業務日誌から

4月9日(日)「西犀川花まつり」で犀川花熊の三ツ塚古墳群の見学会が行われました。それぞれの遺構について学芸員による詳しい説明があり、多くの参加者から様々な質問が寄せられました。

4月15日(土)・16日(日)に勝山黒田の黒田神社で黒田楽(町指定文化財)の奉納が行われました。恵天候下の奉納でしたが終了後には大勢の見学者から温かい拍手が送られました。



▲シンボルの鶏の羽根飾りが映える奉納となりました



▲犀川の歴史の奥深さを感じることができました

みやこの歴史発見伝98

三ツ塚古墳群 その二

— 大型円墳と、その下から発見された弥生の集落跡 —

「三ツ塚」の由来

みやこ町犀川の馬ヶ岳山麓から御所ヶ谷神籠石南側山麓には百基以上の古墳の分布が確認されており、みやこ町内における古墳密集エリアの一つとなっています。

この中の三ツ塚古墳群は、特に大きな古墳をみることで、三ツ塚は、直径二〇mを測る大型の円墳三基が整然と並んで見えたことから名付けら

れたとされています。

平成二七年度に、この古墳群の方墳を対象とした発掘調査を行い、その結果をご紹介します。いただきました。今回は、平成二八年度の発掘調査についてご報告いたします。

巨大な墳丘

墳丘は直径二五m、高さ約三・五mを測る円墳で、土をつき固めながら頑丈な盛土を行う版築技法によって築かれ



▲墳丘検出状況(上)と墳丘下から検出された弥生時代の遺構(下)

たものでした。また墳丘全周を囲む形で最大幅四・五mの濠が検出され、さらにその外周には周堤とよばれる堤が確認されるなど、築かれた当時の形が良好に保たれていました。

石室と排水溝

石室は、入口部分の石組を除いて、石室の壁面にあたる石材のほぼ全てが抜き去られています。これらの痕から石室の規模や形を復元すると、大型の石材で築かれた全長一二〜一三m規模の横穴式石室であったことが確認できました。また玄室とよばれる遺体を納めるための石室から入口方向にかけて石室床面中央部に排水溝が設けられており、溝の両側面は扁平な花崗岩を並べて補強されていました。

これとは別に玄室奥壁に平行する形でもう一本の溝が設けられ、互いがT字形に交わる形であることが分かりました。徹底的に盗掘を受けていたことが、敷石の隙間などから、副葬品のガラス小玉、鉄製の鏃などが出土し、石室内から出土した土器の形などから六世紀後半頃に造られたものと判断しました。

古墳の盗掘は副葬品を対象として行われることが多いのですが、調査の結果からこの古墳は石材の採取を目的として盗掘が行われたものと考えられます。



▲石室床面と排水溝の検出状況

古墳築造前の遺構と遺物

平成二七年度の調査では、旧石器時代から弥生時代の遺物が出土し、弥生時代の遺構が検出されました。今回の調査では、墳丘盛土の中から弥生時代の土器片が大量に出土し、調査当初に設けた試掘溝でも墳丘の下に弥生時代の遺構があることが確認されました。考古学の調査では、一般的に新しい時代の遺構から先に調査するため、今回も古墳の墳丘調査終了後に墳丘盛土を除去して、その下にある弥生時代の遺構の調査を行いました。

その結果、弥生時代の竪穴式住居跡、物見櫓や倉庫と思われる掘立柱建物跡、食糧を蓄えた貯蔵穴などの遺構を検出しました。また縄文時代のもものとみられる落とし穴遺構も検出されました。

見直される古墳の位置付け

三ツ塚古墳群と今川を挟んで三kmほど離れた台地上にある

彦徳甲塚古墳は、二重の濠を備えた円墳で、現在、福岡県の文化財指定を受けています。この古墳は、今回調査した円墳とはほぼ同じ規模で、墳丘が二段に築かれるなど、いくつかの共通点をみることであります。

町内でも稀にみる規模の古墳を調査したことに伴って多くの新たな発見があり、特に今川流域にみられる首長クラスの古墳を研究する上で欠かすことのできない貴重な資料となりました。

(井上信隆)



▲排水溝の検出状況(T字部分)